

# SUMIDA REPORT

DIGITAL CONVERGENCE

# 2010

# 4Q



# 2010 4Q Performance

当第4四半期連結会計期間の売上高は、12,615百万円となり前年同期より微減、営業利益は404百万円（前年同期は868百万円）となりました。

## ■ 2010年第4四半期（3か月間）ハイライト（単位：百万円）

	2009 / 4Q	2010 / 4Q
売上高	12,683	<b>12,615</b>
営業利益	868	<b>404</b>
経常利益	786	<b>45</b>
四半期純利益	165	<b>415</b>
	2009 / 12月末	2010 / 12月末
総資産	54,504	<b>49,410</b>
純資産	11,068	<b>8,848</b>

## ■ 売上高（単位：百万円）

2010年	<b>53,445</b>
2009年	43,652
2008年	55,733

## ■ 売上高・営業利益（損失）四半期推移（単位：百万円）

	売上高	営業利益（損失）
2010 4Q	12,615	404
3Q	13,828	1,102
2Q	14,107	1,036
1Q	12,894	1,025
2009 4Q	12,683	868
3Q	12,323	619
2Q	10,065	-377
1Q	8,579	-1,344
2008 4Q	10,718	-745
3Q	14,701	819
2Q	15,479	1,049
1Q	14,834	1,042

## ■ 四半期純利益（純損失）推移（単位：百万円）

2010 4Q	415
3Q	889
2Q	253
1Q	652
2009 4Q	165
3Q	-109
2Q	-994
1Q	-1,070
2008 4Q	-6,759
3Q	531
2Q	-17
1Q	502

## ■ 事業セグメント別売上高 四半期推移（単位：百万円）

	アジア・パシフィック事業	EU事業	環境・エネルギー事業
2010 4Q	6,902	4,548	1,164
3Q	7,933	4,609	1,286
2Q	7,822	4,876	1,407
1Q	6,878	4,653	1,362
2009 4Q	6,951	4,416	1,317
3Q	6,798	3,996	1,530
2Q	5,721	3,433	912
1Q	4,644	3,246	687

## ■ 事業セグメント別営業損益 四半期推移（単位：百万円）

	アジア・パシフィック事業	EU事業	環境・エネルギー事業	消去又は全社
2010 4Q	-790	903	259	32
3Q	-578	-22	1,262	441
2Q	-610	1,213	386	48
1Q	-555	1,270	282	28
2009 4Q	-569	1,306	89	43
3Q	-581	1,073	99	29
2Q	-633	-319	426	149
1Q	-629	-481	-174	-61

## SUMIDAの商品ラインナップ

SUMIDAの商品は、アンテナに代表される電子系と自動車のABSなどの電気系といった「電子と電気」に関連した多彩なラインナップが大きな特長となっています。用途においても、「微弱電子分野から大電力産業分野まで」幅広く網羅されており、さまざまなニーズに応えています。



# CEO Message

2010  
4Q

## 成長路線への回帰

### 営業利益、純利益ともに黒字化を達成

2010年には、さまざまな出来事がありました。年初のハイチ大地震、世界各国での夏の猛暑、アメリカのメキシコ湾原油流出事故、アイスランドの火山噴火と災害が相次ぎました。また、コンシューマーエレクトロニクス関連のビジネスにおいては、iPadといった新しいタイプの製品が世界の注目を集めました。そして多数の国々、特にEU諸国では債務危機の克服に苦しめられたものの、2010年は、世界全体が数十年に一度といわれる深刻な経済危機から立ち直りを見せた年でもありました。それでも依然として多くの不確実性が残っており、将来を慎重に見極めようとする姿勢が一般的です。

1年前、私は当社が成長路線に戻ることを宣言しました。2010年は売上高が前年比22.4%増加し、営業利益、純利益ともに黒字化を達成することができました。皆様への約束を実現し、こうしてご報告することができることを喜ばしく思っております。

### 成長市場へ果敢にアプローチ

コンシューマーエレクトロニクス市場においては、製品サイクルの短縮化に伴い開発のスピードが速まり、当社にもさらに多様な製品が求められるようになっていきます。当社は、引き続きインダクタ部品の新製品（たとえばCDRHxxDxxシリーズ、CDEIR85MEなど）を送り出すことにより、こうした市場の要求に迅速に対応してきました。

自動車関連市場では、新製品の開発と重

スミダグループCEO  
八幡 滋行



要顧客との関係性の強化に努めた結果、当社の自動車関連部品に対する新たな引き合いを得ることに成功しました。自動車市場が回復するにつれ、トップシェアを誇る当社製品、XenonイグナイターやABS/ESCコイル（アンチロックブレーキシステム/横滑り防止装置）に対する需要が回復し、これらの製品は当社の業績好転に大きく寄与しています。

さらに将来の成長に繋げるために、当社はハイブリッド/電気自動車市場におけるキープレーヤーと、初期段階からの共同開発や共同プロジェクトを着実に進めています。このような努力により、自動車市場において将来非常に有望なセグメントに対し、部品とモジュールを供給するキーサプライヤーになることができたのです。

今後、長期的な成長が見込まれる産業分野市場では、ヨーロッパの太陽エネルギー業界のキープレーヤーとの関係を強化しています。特に、輸出主導による回復が著しいドイツにおいて現地キーサプライヤーとの共同開発を通じ、当社製品は新たなグローバル市場に参入することができました。

生産面では、「製造のシルクロード構想」の推進に引き続き取り組んでおり、2010年には、中国の湖南省常德市と江西省吉安市、ベトナムのハイフォン市にサテライト工場を設立しました。サテライト工場への生産の分散により、当社の主力工場がある広東省の最低賃金が上昇しても、グループ全体としては低コスト生産体制を維持していくことが可能となりました。

### 収益性向上をめざして

また、当社の将来を見据えてグループ全体の組織を整備しました。2010年9月には、経営の効率化・最適化を図るため、業務執行を社長の下に一本化し、意思決定の迅速化と経営効率を高めました。加えて、営業・生産・開発・購買といったグループ全体の各機能部門を統括するスペシャリストを責任者に任命し、各部門の業務を強化するとともに、こうした機能部門の責任者のグループが当社のトップマネジメントをサポートし、激動が予想される将来に備えるための計画を立案する体制としました。

2010年の業績は、極端に悪化した2009年からは回復しました。悪化の原因は、ある意味では市場全体が2008年のリーマンショックに過剰に反応した結果といえるものでした。世界経済はまだ完全に回復したとは決して言い切ることはできません。依然としてリスクと不確実性を含んでいる現状を踏まえ、今後数年の成長ペースは緩やかなものと予想しています。

そうしたなかで、2011年の事業計画では、売上高550億円、営業利益40億円、純利益26億円を見込んでいます。2010年比はそれぞれ3%、13%、18%の伸びであり、売上の伸び方は控えめですが、収益性を向上させる経営をめざしています。

2010年の当社の業績には満足しています。しかしながら、今後はさらに業績を伸ばせるものと確信しています。引き続き最善の努力をする覚悟でありますので、株主の皆様には、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

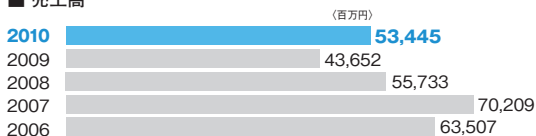
# 2010 通期業績

## ■ 経営成績

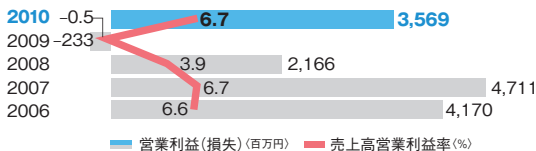
	2006	2007	2008	2009	2010
売上高	63,507	70,209	55,733	43,652	<b>53,445</b>
営業利益(損失)	4,170	4,711	2,166	-233	<b>3,569</b>
売上高営業利益率	6.6	6.7	3.9	-0.5	<b>6.7</b>
経常利益(損失)	4,505	4,367	-146	-773	<b>2,241</b>
売上高経常利益率	7.1	6.2	-0.3	-1.8	<b>4.2</b>
当期純利益(純損失)	2,181	2,855	-5,742	-2,009	<b>2,210</b>
売上高当期純利益率	3.4	4.1	-10.3	-4.6	<b>4.1</b>
純資産	27,150	29,918	14,700	11,068	<b>8,848</b>
総資産	70,161	71,509	60,813	54,504	<b>49,410</b>

(単位:百万円、%)

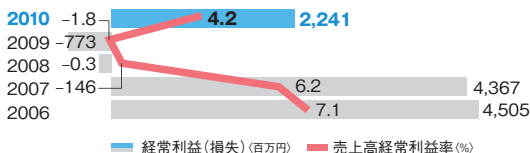
## ■ 売上高



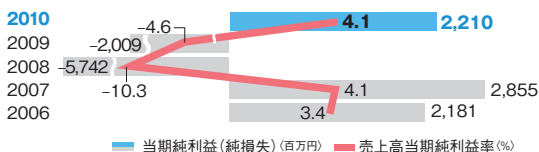
## ■ 営業利益(損失) / 売上高営業利益率



## ■ 経常利益(損失) / 売上高経常利益率



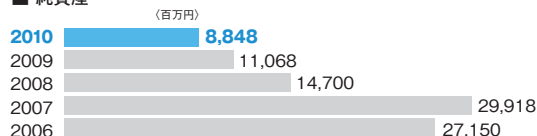
## ■ 当期純利益(純損失) / 売上高当期純利益率



## ■ 総資産

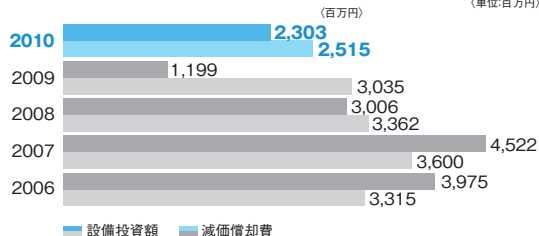


## ■ 純資産



## ■ 設備投資額及び減価償却費

	2006	2007	2008	2009	2010
設備投資額	3,975	4,522	3,006	1,199	<b>2,303</b>
減価償却費	3,315	3,600	3,362	3,035	<b>2,515</b>



## ■ 研究開発費

	2006	2007	2008	2009	2010
研究開発費	1,428	1,408	1,424	1,110	<b>1,069</b>
売上高研究開発費比率	2.3	2.0	2.6	2.5	<b>2.0</b>



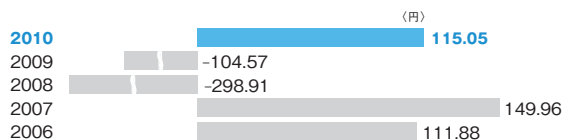
# 2010 通期業績

## ■ 1株当たり情報

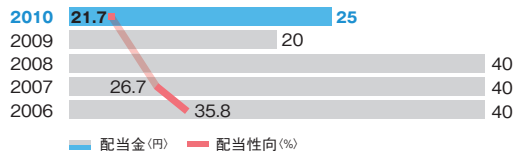
	2006	2007	2008	2009	2010
当期純利益(純損失)	111.88	149.96	-298.91	-104.57	<b>115.05</b>
配当金	40	40	40	20	<b>25</b>
配当性向(%)	35.8	26.7	-	-	<b>21.7</b>
純資産	1,383.75	1,486.13	718.04	545.55	<b>433.22</b>
営業活動によるキャッシュ・フロー	167.41	219.53	104.90	98.29	<b>161.13</b>

(単位:円、%)

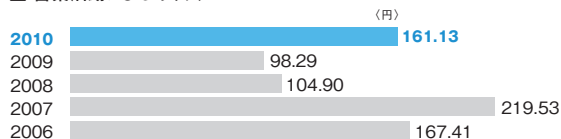
## ■ 当期純利益(純損失)



## ■ 配当金及び配当性向



## ■ 営業活動によるキャッシュ・フロー



## ■ 収益性指標

	2006	2007	2008	2009	2010
売上高当期純利益率	3.44	4.07	-10.30	-4.60	<b>4.14</b>
総資産回転率	1.04	0.99	0.84	0.76	<b>1.03</b>
財務レバレッジ	2.39	2.71	3.23	4.75	<b>5.53</b>
自己資本当期純利益率(ROE)	8.54	10.90	-28.03	-16.55	<b>23.51</b>
総資産当期純利益率(ROA)	3.58	4.03	-8.68	-3.48	<b>4.25</b>
総資産経常利益率	7.39	6.17	-0.22	-1.34	<b>4.31</b>

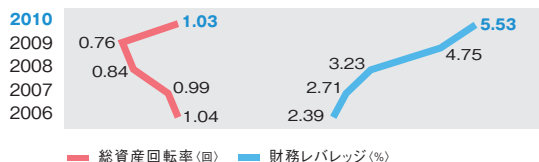
(単位:%、回)

## ■ 売上高当期純利益率/自己資本当期純利益率(ROE)



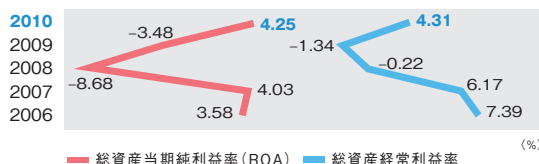
— 売上高当期純利益率 — 自己資本当期純利益率(ROE)

## ■ 総資産回転率/財務レバレッジ



— 総資産回転率(回) — 財務レバレッジ(%)

## ■ 総資産当期純利益率(ROA)/総資産経常利益率



— 総資産当期純利益率(ROA) — 総資産経常利益率

# 2010 通期業績

## ■ 連結貸借対照表

資産の部	前連結会計年度 (平成21年12月31日)	当連結会計年度 (平成22年12月31日)
現金預金	9,317	7,399
受取手形及び売掛金	10,422	10,086
たな卸資産	6,491	7,706
その他流動資産	2,385	1,975
流動資産合計	28,619	27,168
有形固定資産	15,288	13,112
無形固定資産	5,000	3,854
投資有価証券	480	443
その他固定資産	5,021	4,737
固定資産合計	25,790	22,145
繰延資産	95	97
資産合計	54,504	49,410
負債の部		
支払手形及び買掛金	3,831	3,995
短期借入金	21,368	21,796
その他流動負債	4,950	5,527
流動負債合計	30,149	31,318
長期借入金	5,550	4,376
その他固定負債	7,737	4,867
固定負債合計	13,287	9,243
負債合計	43,436	40,561
純資産の部		
株主資本合計	17,847	19,673
評価・換算差額等合計	-7,366	-11,350
少数株主持分	586	525
純資産合計	11,068	8,848
負債純資産合計	54,504	49,410

(単位:百万円)

## ■ 連結損益計算書

	前連結会計年度 (自平成21年1月1日 至平成21年12月31日)	当連結会計年度 (自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)
売上高	43,652	53,445
売上原価	35,074	41,191
売上総利益	8,577	12,253
販売費及び一般管理費	8,811	8,683
営業利益(損失)	-233	3,569
営業外項目		
受取利息・配当金	41	30
その他営業外収益	323	92
支払利息	650	599
その他営業外費用	256	850
営業外収益(費用)	-540	-1,328
経常利益(損失)	-773	2,241
特別利益	283	8
特別損失	1,874	193
税金等調整前当期純利益(純損失)	-2,365	2,056
法人税等合計	-413	-242
少数株主利益	57	88
当期純利益(純損失)	-2,009	2,210

(単位:百万円)

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

	2006	2007	2008	2009	2010
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,264	4,179	2,015	1,888	3,095
投資活動によるキャッシュ・フロー	-10,047	-2,280	-1,687	-128	-1,794
財務活動によるキャッシュ・フロー	-5,295	1,071	2,717	-3,529	-2,191
現金および現金同等物期末残高	6,537	9,355	10,502	9,064	7,275

(単位:百万円)

## ■会社概要

持株会社	スミダコーポレーション株式会社
本社	東京都中央区日本橋三丁目12番2号 朝日ビルディング
設立	1956年(昭和31年)1月16日
資本金	72億16百万円(2010年12月31日現在)
連結売上高	534億45百万円(2010年12月期)
株式	東京証券取引所市場第一部上場
決算期	12月31日
主要取引銀行	三井住友銀行・リソな銀行・三菱東京UFJ銀行・みずほコーポレート銀行
代表者	代表執行役CEO 八幡滋行
従業員数	20,003名(2010年12月31日現在)
R&D センター	東京・仙台・長野・中国・ドイツ
国内営業拠点	東京・仙台・長野・熊谷・金沢・名古屋・大阪
海外営業拠点	香港・シンガポール・中国・台湾・タイ・韓国・アメリカ・ドイツ
生産拠点	日本・中国(太平・番禺・南寧・湖南・江西)・ベトナム・タイ・メキシコ・ドイツ・ルーマニア・スロベニア
事業内容	音響・映像・OA・車載用・産業用機器等の電子部品、高周波コイルの研究・開発・設計・製造・販売

## ■株主情報

証券コード	6817
定時株主総会	3月
基準日	12月31日
一単元の株式数	100株
	第1四半期配当:3月31日
	第2四半期配当:6月30日
	第3四半期配当:9月30日
	第4四半期配当:12月31日

## スミダコーポレーション株式会社

〒103-8589  
東京都中央区日本橋三丁目12番2号  
朝日ビルディング  
TEL : 03-3272-7100  
FAX : 03-3272-7802

[www.sumida.com](http://www.sumida.com)

